

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00482

研究課題名(和文) 両大戦間期パリにおける環大西洋文学の形成をめぐる語圏・地域横断的研究

研究課題名(英文) A Cross-linguistic and Cross-regional Study of the Formation of Transatlantic Literature in Paris during the Interwar Period

研究代表者

中村 隆之 (NAKAMURA, Takayuki)

早稲田大学・法学大学院・准教授

研究者番号：20510085

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：「環大西洋文学」という観点から主にフランス語と英語の文献を中心に調査・研究を実施し、両大戦間期のアフリカ系知識人の黒人意識運動の概要を素描することに努めた。パリにおける黒人意識運動の形成についてはネグリチュード運動論として、国際共産主義運動との関係については『ニグロ・ワーカ―』論としてそれぞれ成果物を公表した。本研究の主要成果物は『環大西洋政治詩学』である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によりパン・アフリカニズムと国際共産主義運動との関係を明らかにするとともに日本語でのフランス語圏文学研究におけるネグリチュード運動をめぐる定説を刷新した。本研究期間中にBLM運動の世界的波及によりレイシズムの問題が日本社会でも話題とされるようになったが、本研究はそうしたレイシズムへの対抗運動の歴史の一部に日本語で知ることができるようにしたことに研究成果の社会的意義がある。アラン・マバンク『アフリカ文学講義』の翻訳、オレリア・ミシェル『黒人と白人の世界史』の解説などは本研究の社会的還元として位置付けられる。

研究成果の概要(英文)：From the perspective of "Transatlantic Literature," I have conducted research and surveys mainly in French and English documents to outline the black consciousness movements of African and Caribbean intellectuals in the interwar period. I have published an article on the formation of the Negritude movement in Paris and an article on the "Negro Worker" in relation to the international communist movement. The main product of my research is "The Poetics of Transatlantic Politics".

研究分野：フランス語圏文学

キーワード：環大西洋文学 両大戦間期パリ ブラック・モダニズム ネグリチュード パン・アフリカニズム ハイチ文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の分野は、フランス語で書かれた 20 世紀のアフリカ系文学(アフリカ・カリブ海の文学)である。従来、フランス語のアフリカ系文学は 1930 年代のパリで、自分たちが「黒人」であることを肯定する文学運動「ネグリチュード」から始まったと言われる。この運動を牽引したセゼール、サンゴール、ダマスという 3 名はアフリカ系文学の「ネグリチュード」の代表作家として名を残し、彼らの著述は今日まで研究されている。他方、「ネグリチュード」以前にもアフリカ系文学の素地を形成した作家や知識人も数多くいた。「ネグリチュード」がなかば伝説化してしまったために、この時期のその他の人々の著述や活動はあたかも重要でないかのように長い間考えられてきたのである。しかしこの考えは、2000 年以降、とくに英語圏におけるフェミニズム批評、文化批評の観点からは是正されはじめ、「ネグリチュード」に先行する多様な活動の重要性に再び焦点が当たり始めている。欧米圏の先行研究は「ネグリチュード」が誕生するまでの 1920 年代・30 年代の文化的コンテクストや無名に追いやられた作家・芸術家の存在をある程度明らかにしてきた。つまり、それらの研究を踏まえて期待できるのは、両大戦間期のパリというモダニズムの文学運動の全盛期の裏側で、アフリカ系文学がどのように形成されていったのかを、「ネグリチュード」に収斂させる従来の文学史的言説とは異なる視座から、より多角的かつ動態的に研究するということである。

2. 研究の目的

本研究は、1920 年代・30 年代における「環大西洋文学」の形成のプロセスを、とくにパリに集うアフリカ系の人々の移動と交流に焦点を当てて、解明することを目指す。そのさい、以下を重点課題とする。(1)ブラック・モダニズム:「ネグリチュード」という「黒人意識」の発明には、ハーレム・ルネッサンスからの影響があることは定説である。ニューヨークのハーレムで 1920 年代に活躍しはじめる詩人や小説家がパリを訪れ、学生時代のセゼールやサンゴールに影響を与えた点、交流の場を築いたマルチニック出身のナルダル姉妹の重要性などの研究を手掛かりにブラック・モダニズムという視点から「黒人」の書き手が欧米のモダニズムをどのように受容したのかという問いのもとに研究をおこなう。(2)パン・アフリカニズム:英語圏で 19 世紀末から生まれるアフリカ人の主体性回復の運動をパン・アフリカニズムと呼ぶが、このパン・アフリカニズムの思潮は、国際共産主義運動とも連動していた。フランス語圏で 1920 年代から共産主義系の黒人労働組合が生まれ、さまざまな機関紙を刊行した。ジョージ・パドモアに代表されるパン・アフリカニズムの英語圏の知識人の活動は、フランス領西アフリカやカリブ海の労働者の運動にどのような影響を及ぼしたのかという問いのもとに調査をおこなう。

3. 研究の方法

以上の 2 点の研究課題を中心に 2019 年度から 22 年度の 4 年間に関係する資料を調査・収集・読解をおこなう。ブラック・モダニズムについては、1930 年代の雑誌『黒人世界評論』(1931-32)、『正当防衛』(1932)『黒人学生』(1935-38)、ナンシー・キュナード『ニグロ』(1934)など、パン・アフリカニズムについては、ブラック・モダニズムに先行する 1920 年代から 30 年代の組合労働誌の調査・研究をおこなう。対象は『ニグロの声』(1927)、『黒人種族』(1927-31)、『アフリカ速報』(1928-1932)、ラミン・サンゴールの『国への侵犯』(1927)、コミンテルンの黒人労働組合運動機関誌『ニグロ・ワーカー』(1928-1937)などを取り上げる。

4. 研究成果

2019 年度は、その実績として、2019 年 8 月にフランス国立図書館にて資料収集をおこない、1920 年代・30 年代刊行の黒人労働機関紙を収集した。とりわけ、2019 年度の計画に即して「両大戦間期パリの黒人学生・知識人に見るブラック・モダニティ」というフランス語の論文を執筆し、2020 年 2 月刊行のエリック・ノエル編『パリ・クレオール』に掲載されたことが、主要な研究実績である。この論文では両大戦間期パリの黒人学生・知識人が刊行した雑誌・定期刊行物を資料としながら、「ネグリチュード」が形成されるプロセスを、1920 年代ニューヨークのハーレム・ルネッサンス運動、ハーレムの作家たちのパリでの橋渡しをになったゴンクール賞作家ルネ・マランの役割、ナルダル姉妹の貢献の解明に重点を置きながら、セゼール、サンゴール、ダマスという 3 人の神話が形成される以前の、「黒人知識人・学生」によるネグリチュード運動への寄与を総合的に記述した。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、当該年度に予定していた研究調査のための渡航が中止となったため、これまでに収集した資料の読み込み、論文執筆にあたっての準備を行なった。具体的にはフランスで 1920 年代にカリブ・アフリカ系の人々が発行した定期刊行物や、ハイチで 1920 年代に刊行された雑誌などである。

2021 年度も世界的な感染症予防対策のもと、当初計画していた海外渡航を実施することが叶わ

なかったものの、新型コロナウイルスの感染長期化は予期できたため、2020年度に取り組んできた資料読解、関連する翻訳作業、論文執筆に注力した。また2021年度中に、ネグリチュード運動を中核とするアフリカ文学史を論じたAlain Mabanckou, Huit leçons sur l'Afriqueをアラン・マバンク『アフリカ文学講義』としてみすず書房より福島亮氏との共訳で出版した。またグリッサンと奴隷制の記憶をめぐるフランス語の論文がその一章をなすL'Atlantique, machine à rêves ou cauchemar sans trêve ?がEditions La Gesteより刊行された。ほかに本研究の成果であるハーレム・ルネサンスをめぐる論文が一章をなす『ハーレム・ルネサンス』および解説を担当したオレリア・ミシェル『黒人と白人の世界史』が明石書店より刊行された。

2022年度の研究成果としては、8月にフランスに渡航し、長年取り組んでいるカリブ海の作家・思想家エドゥアール・グリッサンをめぐるスリジーにおける学术交流に参加し、報告をおこなうなど、世界的な感染症予防対策で難しくなっていた海外での研究交流を実施できた。また、本研究課題の前身にあたる課題から準備をしてきたエドゥアール・グリッサンによる雑誌『アコマ』をめぐるフランス語論文を掲載することができた。さらに、2022年8月に本研究期間に実施した調査・研究に基づくエッセイ『第二世界のカルトグラフィ』を刊行した。本書は社会的発信に重きをおく著作である。12月には『環大西洋政治詩学』を上梓することができた。これは本研究課題期間中に執筆した研究論文のみならず、これまでに公表してきた論文を「環大西洋」の観点から編んだ論集であり、本研究課題の主要な成果刊行物である。本書には2021年度に資料読解に注力したフランスにおける国際共産主義運動と黒人問題をめぐる論考を掲載している。さらに『思想』2023年3月号掲載の論文は、『ニグロ・ワーカー』という国際共産主義運動における黒人労働組合活動結成をつうじた階級闘争のための機関誌を対象にした。加えて『岩波講座世界歴史』にネグリチュード運動をめぐる論考を寄せた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Nakamura Takayuki	4. 巻 11
2. 論文標題 La revue Acoma ou l'ouverture collective aux mondes des Ameriques	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Francospheres	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3828/franc.2022.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 中村隆之	4. 巻 11
2. 論文標題 「復帰」の問いと 世界の響き としてのカリブ海文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 越境広場	6. 最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村隆之	4. 巻 1187
2. 論文標題 『ニグロ・ワーカー』あるいは「ブラック・ラディカルの伝統」の一起点：国際共産主義運動とパン・アフリカニズムを越境する想像力のために	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村隆之	4. 巻 0
2. 論文標題 エドゥアール・グリッサンの群島の思考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立花英裕編『クレオール想像力：ネグリチュードから群島の思考へ』（水声社）	6. 最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村隆之	4. 巻 0
2. 論文標題 フランス語圏カリブ海文学日本語文献目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立花英裕編『クレオール想像力：ネグリチュードから群島の思考へ』（水声社）	6. 最初と最後の頁 441-467
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村隆之	4. 巻 7
2. 論文標題 20世紀末クレオール論の政治的意義とその喪失の今日的意味	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 越境広場	6. 最初と最後の頁 78-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村隆之	4. 巻 48-11
2. 論文標題 エドゥアル・グリッサン『関係の詩学』：汀の足跡、思考の他者	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 260-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村隆之	4. 巻 0
2. 論文標題 全-世界におけるブラック・ライヴズ・マターは反欧米中心主義、反血統主義を掲げる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 河出書房新社編集部編『BLACK LIVES MATTER：黒人たちの叛乱は何を問うのか』（河出書房新社）	6. 最初と最後の頁 56-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takayuki Nakamura	4. 巻 0
2. 論文標題 La traduction d'Edouard Glissant en japonais et la reception du Discours antillais au Japon	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Edouard Glissant et Le Discours antillais : la source et le delta(Editions de l'Institut du Tout-Monde)	6. 最初と最後の頁 219-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aggee Celestin Lomo Myazhiom, Takayuki Nakamura, Yutaka Sakuma et Moriyuki Hoshino	4. 巻 198
2. 論文標題 Construire le monde a partir d'une faille Presence Africaine projet-monde : de la negritude a la creolisation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Presence Africaine	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takayuki Nakamura	4. 巻 198
2. 論文標題 Litterature, Langue et politique : les enjeux autour du debat sur la poesie nationale	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Presence Africaine	6. 最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takayuki Nakamura	4. 巻 0
2. 論文標題 Modernite noire chez les etudiants et intellectuels a Paris durant l'entre-deux-guerres	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Paris creole (sous la direction d'Erick Noel)	6. 最初と最後の頁 97-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Takayuki Nakamura
2. 発表標題 Poétiques de Glissant contre la pensée de système
3. 学会等名 Edouard Glissant, la relation mondiale (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村隆之
2. 発表標題 クレオール、アフリカ、世界：日本におけるフランス語圏アフリカ系文学研究の四半世紀
3. 学会等名 複数の世界文学に向けて：フランス語圏文学の遺産と未来
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takayuki Nakamura
2. 発表標題 La traduction d'Edouard Glissant en japonais et la réception du Discours antillais au Japon
3. 学会等名 EDOUARD GLISSANT et Le Discours antillais : la source et le delta
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村隆之
2. 発表標題 『ダヴィッド・ジョップ詩集』について
3. 学会等名 『プレザンス・アフリケーヌ』研究(2) テキスト・思想・運動, 2019年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村隆之
2. 発表標題 エドゥアール・グリッサンの小説世界における動物：『痕跡』読解
3. 学会等名 文学・環境学会第25回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 アラン・マバンク、中村隆之、福島亮	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 アフリカ文学講義	

1. 著者名 中村 隆之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 224
3. 書名 第二世界のカルトグラフィ	

1. 著者名 中村 隆之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 490
3. 書名 環大西洋政治詩学	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己、吉澤 誠一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 二つの大戦と帝国主義 20世紀前半（「ネグリチュード運動の形成」担当）	

1. 著者名 松本 昇、深瀬 有希子、常山 菜穂子、中垣 恒太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 612
3. 書名 ハーレム・ルネサンス（分担執筆）	

1. 著者名 オレリア・ミシェル、児玉 しおり、中村 隆之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 黒人と白人の世界史（解説担当）	

1. 著者名 アラン・マバンク、中村隆之、福島亮	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 アフリカ文学講義（翻訳を共訳で担当）	

1. 著者名 Cecile Bertin-Elisabeth, Erick Noel	4. 発行年 2021年
2. 出版社 La Gesete	5. 総ページ数 200
3. 書名 L'Atlantique, machine rêves ou cauchemar sans trêve ? (分担執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1930年代のバリで、アフリカ系文学はどう生まれたか https://www.sekaiwokaeyo.com/theme/k0034/</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------